

令和 3 年 5 月 25 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03373

研究課題名(和文) 創造的思考の基盤としての建築術：初期近代イタリアの美術・文芸における空間の観念

研究課題名(英文) Ars aedificatoria as the bases for the crafts of thought: the idea of space in visual art and literature of the early modern Italy

研究代表者

桑木野 幸司 (Kuwakino, Koji)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30609441

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：初期近代西欧、とりわけイタリアの美術・文芸における創造の側面に、建築という空間モデルがどのように作用しているのかを、とりわけ記憶術という知的方法論を軸に分析を行った。その結果、文章の創作においても、視覚芸術の創作においても、建築をヴァーチャルな情報モデルとして有効に活用している事例を明らかにした。その成果は、『ルネサンス庭園の精神史』、および『記憶術全史』という日本語の二著作で発表したほか、複数の外国語論文・発表でも示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果をまとめた日本語の著作『ルネサンス庭園の精神史』、および『記憶術全史』は高く評価され、アウトリーチ活動として有意義な貢献となった。とくに前者は、サントリー学芸賞を受賞し、広く社会に認知された。

研究成果の概要(英文)：We analyzed how the spatial model of architecture works on the creative side of art and literary arts in early modern Western Europe, especially in Italy, focusing on the intellectual methodology of mnemonic. As a result, we clarified the case where architecture is effectively used as a virtual information model in both the creation of sentences and the creation of visual arts. The results were published in two Japanese books, "The Spiritual History of the Renaissance Garden" and "The Complete History of Memories," and were also shown in several foreign language treatises and presentations.

研究分野：西洋美術史

キーワード：記憶術 建築 エクフラシス 百科全書 コレクション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

西欧では古代より、人の心のあり方を空間的に捉える伝統があり、発想や記憶といった精神活動はしばしば、物理的な移動の比喩で説明されてきた。何かを記憶することは、心の部屋に心象を格納することであり、想起や想像とは、内面空間を移動して適切な精神イメージを見つけ出し、それらの組み合わせを工夫することに等しかったのである。こうした観念がやがて記憶術という知的方法論へと結実し、古代の弁論術において体系的に教授されるに至った(記憶術の基本については F. Yates (*The Art of Memory*, 1966) および P. Rossi (*Clavis Universalis*, 1960) を参照)。精神内面に仮想建築を建て、その中に記憶対象を表象するイメージを配置することで、膨大なデータを立体的に処理する記憶術が、古代から初期近代に至るまで知識人たちの思考活動に大きな影響を与えてきたことが、近年の研究によって明らかになりつつある。精神内での情報配列・操作の「場」を提供する記憶建築は、一種の思考のフレームとして機能する。こうした仮想空間を分析することで、脳内での情報編集すなわち人の創造的思考の仕組みに、新たな光を当てることができるはずだ。その種のアプローチが最も有効なのが初期近代、すなわち新大陸の発見や印刷術の発明による情報の洪水に対処すべく古代の記憶術が華々しい復活を遂げ、様々な知的創作活動に応用されていった時代である。

応募者桑木野は平成 23~24 年度の研究活動スタート支援「十六世紀後半のトスカーナ大公国の視覚芸術文化における記憶術からの影響」において、記憶術と美術との創造的な関係に光を当て、当時の芸術創作が一種の情報編集的な側面を持ち、そこに建築の観念が深く関与していたことを明らかにした(桑木野 2013-25,26)。その一方で、思考モデルとしての建築をより広い観点から見た場合、ルネサンスにおけるウィトルーウィウスの復活が一つの分水嶺となる。ウィトルーウィウスの古代建築論は単なる技術書ではなく、全人教育の理念や多彩な文理の知識も論じていたため、広く当時の知的世界全般に大きな影響を与えた。なかでも人文主義者 D. バルバロ(1513-70)は、百科全書的な学問たる建築学を諸学の中心に位置づけ、知的創作活動を統括する思考のモデルを建築に求めた(A. Angelini, *Sapienza, prudenza, eroica virtù*, 1999)。この視点を手がかりに応募者は、平成 25~27 年度の若手研究(A)「テキストの中の建築：初期近代イタリアの芸術文化における文字、図像、空間の融合」において、文学や造園、絵画制作等の創造活動が、思考のフレームとしての建築の観念に密接に結び付いていたことを、バルバロの事例に即して解明すると共に(Kuwakino 2016-2)、記憶術における仮想建築の特性を L. Schenkel の記憶術論(1590)の分析を通じて明らかにした。(同上 2016-1)

2. 研究の目的

以上、応募者のこれまでの成果から、初期近代の芸術全般を背後で規定していた建築の観念に着目することで、従来の図像学や様式史といった方法論では解明が難しい、芸術的発想(invention)の問題に切り込む道筋が示された。こうした領域横断的視点は、まだ専門化が曖昧であった当時の芸術文化を、その本来の知的文脈において十全に理解する上で必須といえる。しかしながら、たとえば当時の詩作の背後に建築的空間構成の影響を見る研究は、R. Eriksen (*The Building in the Text*, 2001) や C. Skenazi (*Le poète architecte en France*, 2003) などまだ緒に就いたばかりであり、同様に絵画と建築の関係についても、個別事例の分析が散見される程度である。そこで本研究は、狭義の美術史に加え、建築史、文学、美学の専門家による学際的な組織を構築し、初期近代の芸術創作においてこれまで注目されてこなかった建築の観念を、その理論と実践の両面に涉って分析する。全ての芸術が交わる交差点としての新たな建築術の姿を剔抉することで、従来の美術史の視野と方法論の拡幅だけでなく、ルネサンス文化史全般に対しても一石を投じることを目指す。

3. 研究の方法

初期近代の芸術における建築観念の展開を学際的な視点から分析する本課題では、主要な考察対象をイタリア及びその影響圏に絞る。古代建築の復興および視覚芸術の刷新が先駆的に展開したのが同地域であり、またルネサンス人文主義発祥の地として、文学や思想の面でも興味深い事例が多数見られるからである。分析にあたっては、理論的考察と具体作品の分析とを有機的に組み合わせた、以下の三つのテーマと九つのサブテーマを設定し、四年の計画で研究を進めてゆく：(1) 思考の基盤としての建築 : ルネサンス建築思想におけるウィトルーウィウス受容の分析 : 哲学思想および記憶術における情報の基盤としての建築メタファーの分析 : 建築空間と発想(invention)/創造的思考との関連の分析(2) テキストの中の建築 : 古代修辞学におけるエクフラシスの展開と初期近代におけるその受容の分析 : 文学空間における建築描写、および詩作と空間構成理論の関係の分析 : 美術文献における建築描写の分析(3) 視覚芸術と建築 : 十五-十六世紀のイタリア絵画における建築描写のカタログ化 : 視覚的注釈図・概念図・身体解剖図における建築的空間構成からの影響の分析 : 絵画における建築描写

と実建築の世界との相互影響関係の分析。これらの課題は、初期近代における建築学自体の発展および思想界におけるその影響を整理する(1)を理論的基盤に据え、さらに具体的な芸術創作物の分析事例として、修辞学および文学における建築観念の展開を跡付ける(2)と、視覚芸術における建築理念の多様な展開を分析する(3)とを有機的に組み合わせたものである。各テーマはそれぞれが文字、図像、空間を通底させる視点を内包しており、隣接テーマとの有機的な相互浸透を通じて、初期近代イタリアの諸芸術における建築観念の実相を描き出し、美術史研究の新たな視座を提示することを目標とする。

4. 研究成果

上記の研究経過のもと四年間で複数の著作と論文を執筆し、口頭発表を行った。残念ながら、最終年度の予定していた大規模な国際シンポジウムは、コロナ禍のため延期せざるをえなかったが、それ以外は、十分に期待どおりの成果を提示できたものと自己評価する。主だった業績は以下：

- ・桑木野幸司『ルネサンス庭園の精神史：権力と知と美のメディア空間』、白水社、2019年7月
- ・Koji Kuwakino, “The Great Theatre of Creative Thought. The *Inscriptiones vel tituli theatri amplissimi* ... (1565) by Samuel von Quicceberg”, in *La Grande Galleria. Spazio del sapere e rappresentazione del mondo nell'età di Carlo Emanuele I di Savoia*, a cura di F. Varallo e M. Vivarelli, Roma, 2019, pp. 65-100.
- ・桑木野幸司「ルネサンスのメディア革命と建築創作をめぐる諸テーマ」、『建築雑誌』、2020年3月号、pp. 8-11.
- ・桑木野幸司『記憶術全史：ムネモシユネの饗宴』、講談社メチエ、2018年12月10日
- ・桑木野幸司「中世庭園の諸相 エデン神苑から風景の発見まで」、越宏一編『ヨーロッパ中世美術論集5：中世美術の諸相』、竹林舎、二〇一八年、二一九 - 二四三頁。
- ・桑木野幸司「ルネサンス文芸と建築エクフラシスの魅惑：精神イメージとしての宮殿、都市、庭園」、『Arts&Media』、vol. 8、大阪大学文学研究科アート・メディア論コース、2018年、pp. 12-23.
- ・Koji Kuwakino, “A Geometric Receptacle of Knowledge : Information Management in Padua’s Botanical Garden”, *Gardens: History, Reception, and Scientific Analyses*, Nagoya University, 23-24.02.2019.
- ・桑木野幸司「テキストの中の宇宙：A.チトリーニ『ティポコスミア』（一五六一年）が提示する世界建築」、『Arts&Media』、vol. 7、大阪大学文学研究科アート・メディア論コース、2017年、pp. 32-55.
- ・Koji Kuwakino, “L’architettura e l’arte della memoria: la fabbrica del mondo progettata nella Tipocosmia (1561) di Alessandro Citolini”, «EdA Esempi di Architettura», January, 2018, pp. 1-15.
- ・Koji Kuwakino, “La *varietas* in una *sylva geometrica* che «ricrea la mente stanca dal pensiero delle cose difficili»: Daniele Barbaro e l’Orto Botanico di Padova”, in F. Lemerle, V. Zara, P. Caye, L. Moretti (eds.), *Daniele Barbaro 1514-1570. Vénétien, patricien, humaniste*, Turnhout, Brepols 2017, pp. 115-134.
- ・桑木野幸司「初期近代イタリアのヴィッラにおける庭園の自己表象とランドスケープ絵画」、小野健吉（編集）『観光資源としての庭園（2）』、平成28年度および平成29年度「観光資源としての庭園」に関する研究会報告書、2018年3月30日、pp. 141-150.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 -
2. 論文標題 中世庭園の諸相 エデン神苑から風景の発見まで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ヨーロッパ中世美術論集5：中世美術の諸相』	6. 最初と最後の頁 219-243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 8
2. 論文標題 ルネサンス文芸と建築エクフラシスの魅惑：精神イメージとしての宮殿、都市、庭園	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arts&Media	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 -
2. 論文標題 叡智の櫃（arca sapientiae） フラ・アンジェリコ作「銀器収納棚」装飾にみる記憶術的概念図と祈念	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 祈念像の美術	6. 最初と最後の頁 321-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林千宏	4. 巻 -
2. 論文標題 鏡とエンブレム セーフ、ロンサール、ペローにおける鏡のモチーフ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 表象と文化XV	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林千宏	4. 巻 XXXI
2. 論文標題 レミ・ベローにおける牧歌の詩学 『牧歌』(1565)を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロンサル研究	6. 最初と最後の頁 77-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺浩司	4. 巻 52
2. 論文標題 カトゥッルス64歌はどのような歌なのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 待兼山論叢	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 vol. 7
2. 論文標題 テキストの中の宇宙 : A. チトリーニ 『ティポコスミア』(一五六一年)が提示する世界建築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Arts&Media	6. 最初と最後の頁 32-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koji Kuwakino	4. 巻 1
2. 論文標題 La varietas in una sylva geometrica che «ricrea la mente stanca dal pensiero delle cose difficili»; Daniele Barbaro e l'Orto Botanico di Padova	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Daniele Barbaro 1514-1570. —netien, patricien, humaniste	6. 最初と最後の頁 115-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Koji Kuwakino	4. 巻 1
2. 論文標題 L'architettura e l'arte della memoria: la fabbrica del mondo progettata nella Tipocosmia (1561) di Alessandro Citolini	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 EdA Esempi di Architettura	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 2
2. 論文標題 初期近代イタリアのヴィッラにおける庭園の自己表象とランドスケープ絵画	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 観光資源としての庭園	6. 最初と最後の頁 141-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koji Kuwakino	4. 巻 1
2. 論文標題 From domus sapientiae to artes excerpenti: Lambert Schenkel 's De memoria (1593) and the Transformation of the Art of Memory	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Forgetting Machines: Knowledge Management Evolution in Early Modern Europe	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 6
2. 論文標題 科学とアート：ルネサンス博物図譜小史	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Arts&Media	6. 最初と最後の頁 148-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林千宏	4. 巻 XXIX
2. 論文標題 デュ・ベレー『ローマの古跡』『夢』における隠蔽と解説	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『ロンサル研究』	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 記憶の中のイエルサレム 初期近代西欧の聖都表象と夢・幻視・想像力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 夢と表象：眠りところの比較文化史	6. 最初と最後の頁 209-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桑木野幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 文化的景観とイタリア・ルネサンス庭園	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 観光資源としての庭園(1)：平成27年度「観光資源としての庭園」に関する研究会報告書	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水野千依	4. 巻 3
2. 論文標題 桑木野幸司氏著『叡智の建築家 記憶のロクスとしての16 - 17世紀の庭園、劇場、都市』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 133-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Koji Kuwakino
2. 発表標題 A Geometric Receptacle of Knowledge : Information Management in Padua ' s Botanical Garden
3. 学会等名 Gardens: History, Reception, and Scientific Analyses (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 驚異の時代の驚異の芸術: マニエリスム芸術と自然描写の世界
3. 学会等名 国立西洋美術館「アルチンボルド展: Nature into Art」特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 初期近代イタリアのヴィッラにおける庭園の自己表象とランドスケープ絵画
3. 学会等名 「観光資源としての庭園」に関する研究会: 多様な時間軸・空間軸における庭園とその観光 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Koji Kuwakino
2. 発表標題 Il fascino dell' ecfrasi architettonica nel Rinascimento
3. 学会等名 Il fascino dell' ecfrasi architettonica nel Rinascimento (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林千宏
2. 発表標題 レミ・ペローにおける牧歌の詩学 La Bergerie(1565)を中心に
3. 学会等名 大阪大学フランス語フランス文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Kuwakino
2. 発表標題 Hortus sapientiae: giardini come luoghi della memoria e dell'organizzazione del sapere enciclopedico
3. 学会等名 Giardini/gardens: luoghi di confluenza e di elaborazione di idee, simbolo di una privilegiata condizione umana perduta ma recuperabile (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 人文主義者が設計した庭：ダニエーレ・バルバロとパドヴァ植物園（1545年）
3. 学会等名 西洋建築史研究の新たな地平：受容と順応 西洋建築の行間を読む（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 桑木野幸司
2. 発表標題 テキストの中の宇宙：A. Citolini, Tipocosmia (1561)が提示する世界建築
3. 学会等名 建築とエクフラシス（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水野千依
2. 発表標題 祈ること と 見ること :キリスト教の聖像をめぐる文化人類学と美術史の対話
3. 学会等名 成城学園創立100周年・文学研究科創設50周年記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 桑木野幸司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 352
3. 書名 記憶術全史：ムネモシユネの饗宴	

1. 著者名 水野千依(共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 141
3. 書名 『祈ること と 見ること キリスト教の聖像をめぐる文化人類学と美術史の対話』 祈ること と 見ること キリスト教の聖像をめぐる文化人類学と美術史の対話	

1. 著者名 カルロ・セヴェーリ著、水野千依訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 414
3. 書名 キマイラの原理：記憶の人類学	

1. 著者名 水野千依	4. 発行年 2016年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 663
3. 書名 西洋美術の歴史4 ルネサンス	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	水野 千依 (Mizuno Chiyori) (40330055)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	
研究分担者	渡辺 浩司 (Watanabe Koji) (50263182)	大阪大学・文学研究科・准教授 (14401)	
研究分担者	林 千宏 (Hayashi Chihiro) (80549551)	大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・准教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Il fascino dell'ecfrasi architettonica nel Rinascimento	開催年 2017年～2018年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------